

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あやらぎ		
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16-13		
電話番号	083-242-9336	事業所番号	3590104018
法人名	株式会社 セービング		

訪問調査日	平成 21 年 2 月 2 日	評価確定日	平成 21 年 4 月 8 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人 非常勤 9 人 (常勤換算 7.6 人)	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 48,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 400 円	昼食	500 円
	夕食 600 円	おやつ	円
その他の費用	月額 30,000 円		
	内訳 光熱水費(18000円) 日常生活費(12000円)		

(4)利用者の概要 (2月1日現在)

利用者数	18 名	男性 1 名	女性 17 名	
	要介護 1	4	要介護 4	1
	要介護 2	5	要介護 5	0
	要介護 3	8	要支援 2	0
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 90 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医科 やまさきファミリークリニック 歯科 中島歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

街中の住宅街にありながら、地域に溶け込み、共に暮らし続ける場となるよう、運営者・所長をはじめ全職員が利用者と共に前向きに取り組んでおられます。毎月2回地域ボランティアと共に清掃活動や、花壇作りを行ない、それがきっかけで、演奏会やコーラスの訪問、近所の方の訪問、散歩時に地域の方から声をかけていただく等、関わりが広がっています。食事は3食共ホームで作り、献立から買い物・後片付けまで一連のことを利用者と共にしない、外食を交え、食を楽しまれています。

(特徴的な取組等)

毎月課題を設けて勉強会や話し合いを持ち、また家族アンケート(気になること、改善して欲しいこと)、職員アンケート(利用者だったらどんな支援を望むか)を取り、介護サービスの質の向上に取り組まれています。カンファレンスにも、家族が参加しやすいように日程を組み、利用者・家族が参加して行なわれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

地域密着型サービスとしての理念を全職員で検討し、地域住民との交流に取り組み、関わりが広がっています。また、ボランティアの訪問や見学、学生の実習の受け入れなど幅広く取り組まれています。同業者との交流は、山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、交流や研修の機会を計画されています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価はケアの見直しと捉え、各ユニット毎に、全職員で意見交換をしながら各項目ごとに評価を行い、管理者が意見をまとめられました。運営者、所長も外部評価を実施する意義を理解し、職員と共に様々な気づきを得る機会となり、サービスの質の向上に取り組まれています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月ごとに開催され、メンバーは利用者、家族(2名)、老人会会長、有識者(大学講師)、民生委員、地域包括支援センター職員で、ホームの状況や行事報告、評価結果の報告、意見交換などを行なっています。地域との関わりが広がっています。

(家族との連携状況)

家族の面会時に、ホームでの様子、健康状態などを伝え、家族からの要望や意見を聞かれています。ケアカンファレンスに家族の参加もあります。毎月のホーム便りや年賀状やハガキを出したり、家族と共の行事(花見、餅つきなど)、家族会の開催など、家族との連携や関わる機会を作られています。

(地域との連携状況)

日々の散歩で出会う人々との会話、地域の友人の訪問、地域の店での買い物、ボランティアとの交流など、地域の一員としての関係が出来ています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	職員全員で運営理念を見直し、地域社会とのつながりを重視した事業所独自の理念を作っている。	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	事務室に理念を掲示し、ミーティングで確認をしている。日々意識づけし、啓発して、理念に添った関わりができるように、取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	毎月2回、地元ボランティアと共に、地域の清掃活動や花植えに参加している。この関わりから、演奏会やコーラスなどの訪問、散歩時の声かけ、野菜等の差し入れなど、地域との関わりが多くなっている。小学校の運動会の観覧もしている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価はユニットごとに職員全員で検討している。自己評価を通じて、意識の向上、現状の見直しとなっている。運営者、責任者、職員は評価の意義を理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	2ヶ月に1回開催し、評価結果、現状報告・意見交換を行い、サービスに活かしている。地元ボランティアとの清掃活動や演奏会などの訪問など地域との関係が広がっている。会議の構成メンバーの検討はされていない。	・運営推進会議のメンバーの検討(消防、警察、ボランティア、子供会など)
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	介護保険課など関連部署と連携し、報告や相談を行い、サービスの向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会や面会時に日頃の様子や健康状態を伝えたり、毎月のホーム便り(日常や行事での写真が掲示されている)でも近況報告をしている。緊急を要する時は、電話で連絡を取っている。面会時に、生活記録や金銭管理の確認を行なっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に苦情意見箱の設置や相談窓口・外部機関・第三者委員などを掲示している。苦情に対するマニュアルも作成し、それに対応している。家族会や面会時に意見や要望を聞いたり、また事業所に対するアンケートを実施し、改善点や気になる点を話し合い、日々の介護に活かしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出支援や行事、家族の要望などに、柔軟な対応ができるような勤務体制にしている。緊急な場合は、勤務変更を行い、利用者や家族が安心できる体制をとっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動や離職を少なくするために、相談の場を設けている。異動時は馴染みの職員が継続して支える体制を取り、新採用の場合、事業者による2日間の研修を行い、各勤務帯を重複勤務し、利用者が安心して過ごせるように配慮している。家族にはホーム便りや面会時に知らしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望を尊重し、また計画的に取り入れ、研修に積極的に参加している。勤務の一環として参加し、復命伝達も行なっている。毎月、事例検討やテーマを決めて学習を行なっている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加盟したところである。同業者との交流、勉強会や意見交換の機会が計画されている。	・交流会や研修会への参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者、家族に面接し、見学やホームで過ごすなど、馴染みの関係を作り、納得の上でサービスを開始している。また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所からの申し込みもあり、日頃から交流を行い、顔馴染みになった上での利用となっている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者の出来ることは積極的に声をかけ、常に一方的な介護にならないように支援している。洗濯物干しを利用者同士が声を掛け合い、笑いながら行っていた。干し終わったところに職員が声をかけ、一段と大きな感謝や喜びの音が聞こえていた。食事の準備や後片付け、ゴミだしなど利用者の出来るところは見守り、出来ないところは共に行っている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時の情報(家族にもセンター方式で情報を記入してもらっている)、日々の会話や様子などから、利用者や家族の思いや意向を把握するように努めている。</p>	
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族から思いや意向を把握し、個別・具体的な計画になるように話し合っている。ケアカンファレンスに6ヶ月に1回は本人・家族も参加し検討している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的な見直しは6ヶ月としているが、変化がなくても月に1回は計画を確認している。変化が生じた時には、随時現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を取っている。医療機関への通院介助、郵便局などの送迎サービスなど柔軟な対応をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時に希望の医療や通院の仕方を確認し、適切な医療が受けられるように支援している。協力医による定期的な往診や緊急時、休日においても支援を行っており、結果は家族に報告している。かかりつけ医は基本的には家族が付き添い報告を受けている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に本人・家族と話し合い、方針を示し同意書を得ている。状況に応じて、早い段階から担当医や家族と話し合い、前向きに検討されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーについて認識しており、十分な注意や配慮をし介護を行なっている。個人情報に伴う記録物の取り扱いにも、注意を払っている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい暮らしができるように、スケジュールはなく、一人ひとりのペースに合わせ、日々その時々希望に添って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理している。利用者の好みを取り入れた献立で、買い物、調理、後片付けなど、一人ひとりの出来ること、見守りで出来ることを見つけながら、それぞれの力量に応じて共に行ない、楽しんで食事をしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は隔日としているが、毎日入浴が出来る。一人ひとり生活のリズムに合わせて、本人の希望に合わせて入浴している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、一人ひとりの楽しみや出来る事を見つけ、活躍できる場面づくりをしている。トランプ、歌、ぬりえや折り紙を楽しんだり、食事の準備や後片付け、縫い物や掃除、花の水やり、ごみ出しなど、張り合いや生き甲斐に向けての支援を行なっている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に添って、近くの公園や海に散歩したり、買い物やドライブの支援をしている。外食を楽しみにしておられ、家族も同行されることもある。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	注意事項「悪化をもたらす魔の3ロック」を事務所に掲示し、職員全員で注意し合っている。スピーチロックなど無意識の虐待にならないように目配りし、話し合いをしている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は施錠していない。外出傾向のある利用者の把握をし寄り添うなど対応している。地域の人の協力も得ている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成している。利用者一人ひとりのリスクを話し合い、また夜間は1時間毎に見回り、事故を未然に防ぐように取り組んでいる。ヒヤリはっと・事故報告書もきちんと記録され、状態に応じた対応がなされ、家族にも報告されている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成している。年1回消防署員による人工呼吸法、AEDの使用法の説明と実技を学んでいる。ミーティング時に確認、イメージトレーニングなど行なっているが、十分だとはいえない。	・夜間等人手の少ない時の対応方法の習得
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルを作成しており、年2回(1回は夜間を想定)防火避難訓練を行っている。地域の人々に協力を得られるように働きかけているが、具体的な協力体制にはなっていない。	・具体的なマニュアルの検討と訓練(夜間における2階からの訓練、地域住民を交えた訓練など)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬について一人ひとりの情報を理解し、準備者と投薬者を別にし、その都度確認し、一回ずつ手渡し服用するまで見守り、投薬ミスを防止している。必要な情報は医師にフィードバックし、薬の変更時は記録や申し送りで周知を図っている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけを行い、歯間ブラシや舌みがきも活用し、利用者の力量に合わせて支援している。ブラシ類、コップ、義歯は定期的に消毒や洗浄剤を使用し、清潔な保管の支援をしている。歯科受診の必要な場合は、家族の協力を得ながら行なっている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の体調、体重の変化、食事や水分摂取量をチェックしている。好みを考慮し、野菜を多く取り入れ(便秘予防)、嚥下しやすく、食べ残しのないよう献立を考え支援している。専門職による栄養チェックについては前回からかなりの期間が経過している。	・専門職による定期的なチェック
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成している。感染症予防について、訪問看護師や医師から指導を受けている。外出後のうがいや手洗いの励行、消毒、予防接種など感染防止に努めている。疑わしいと感じたら早期の受診、対応をしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下に椅子を置き生活しやすいように工夫され、食堂には置のコーナー、ソファなどがあり、利用者が思い思いの居場所ですごされていた。利用者が生けた花や作品、行事や日常の写真などが飾られ、季節を感じながら、居心地よく過ごせるように配慮されている。大きな窓がありとても明るく、冬でも窓の開閉で室温を調節するほどの暖かさがあった。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みの写真やぬいぐるみを置いたり、使い慣れた家具、テレビ、仏壇などが置かれ、本人や家族が居心地よく過ごせるようにしている。状況に応じ、本人の希望に添って、家族と相談しながら調整している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あやらぎ
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16番13号
電話番号	083-242-9336
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (1 月 19 日現在)

ユニットの名称	グループホーム あやらぎ 1階				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名		
	要介護 1	3	要介護 4	0	
	要介護 2	4	要介護 5	0	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢構成	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 91 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	常勤者を中心に勤務者と検討にて記入
評価確定日	平成 21 年 2 月 2 日

【サービスの特徴】

家庭と同じ環境の中で自分らしさを持って、笑顔で楽しく安心感を持って生活できるよう支援する。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	真心のこもったゆとりの介護、明るい笑顔と思いやり、第二の家族、これらをもとに意思を尊重し、介護にあたる。	継続
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の意味を職員1人ひとりが知り、日々の介護を行う。また、出勤の際、理念を再確認して介護にあたる。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	理念の書いた額を事務所に掲示し、いつも見えるようにしている。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	月に1度ミーティングを行い、質の向上に向け話し合いをしている。また、ミーティング時に利用者の個別状況表を作り、1人ひとりについて話し合っている。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事務所に掲示し来所時に見てもらおう。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	外出時に挨拶をかわし、コミュニケーションをはかる。ホームまた地域の運営理念や役割が地域に理解して頂くよう取り組んでいる。	地域のボランティア団体に来訪してもらい、説明する。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	毎月2回、ボランティアによる地域の清掃活動と一緒に参加している。	毎月第1月曜日と第3木曜日
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの見学、学生研修や資格取得の為の研修者を受け入れている。	多種多様に取組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10 (5)	<p>○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	○	職員の積極的な参加をうながす。
11 (6)	<p>○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		市町担当者等の会議にも積極的に参加し、質の向上に取り組んでいる。
12	<p>○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>		今後、必要性に応じて話し合い、活用していきたい。
13	<p>○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		虐待は、行われていないが見過ごされぬよう注意を払っていく。
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		重要説明事項の書類、説明を十分に理解して頂くようお願いしている。また、契約時、重要説明事項のコピーをわたし疑問点などがあれば情報提供できるようにしている。
15	<p>○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		家族に意見・苦情等のアンケートを行うなどし、運営に反映させている。また、玄関に意見箱を設置し、意見を出しやすい環境を作っている。
16 (7)	<p>○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		毎月1回、グループホーム便りを発行し、家族に郵送し、様子や状況を連絡している。また面会時、普段の状況を説明するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		必要に応じ、シフト変更を行い利用者や家族が安心できるような体勢を作っていく。
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		職員が変わる場合は、利用者、家族への配慮をし、特に利用者に対しては心のケアも十分に行っていく。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	機会があるごとに積極的に参加する。
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>	○	職員同士の年齢の幅も広く、多様に対応していく。
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	グループホーム連絡会には加盟したが、まだ集まりや研修会には出席していないので、今後出席していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員のストレス軽減のため、コミュニケーションを図り、何でも言える環境を作る。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○	職員同士の情報交換やケアに対する意見交換などを行うなど、向上心を持てる環境作りを行う。
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○	初期の段階では、本人が不安に思っている事、困っている事、何を訴えようとしているのかをよく聴いて本人の思いを受け止める。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○	家族が困っていること、不安に思っていることを十分に軽減する。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○	本人の状況を見極め、その方に何が一番必要としているかを考慮した上で対応に努める。
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○	本人が生活していくうえで安心した雰囲気の中で、今まで使用されていたものを身近に置くなど馴染めるよう工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○	調理、掃除など生活全般にわたり共に行えるようにし、本人にも存在感を感じてもらえるように努める

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		病院への受診、日用品の買い物など家族と連絡を密に取る。
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	○	利用者のホームでの様子を月一回たよりとして発送し家族にホームでの様子を知って頂き関係を深められるよう努力する。
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○	本人との関係が途切れないように家族に協力を仰ぐ。
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○	居室にいる時間を個々に応じて減らし、皆で過ごす機会を増やしていくよう努める。
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○	契約終了後も関係が続くよう配慮していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○	今までの生活歴をしっかりと把握した上で希望・意向を聞き心のこもった対応をする。
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	ひとりひとりその方にあった対応を出来るだけ行い満足して頂くよう配慮していく。
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		勤務交代時などしっかり申し送りを行いケアが途切れないように努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の様子を家族に伝えると共に必要に応じて日常の介護に取り入れるよう努めている。	○	カンファレンスにおいて家族の意向を尊重し介護計画に組み入れている。
42 (17)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じて見直しを行っている また、定期的に家族と話し合いの場を持ち家族の意向、本人の意向を聞き介護計画に活かしている。		状況の変化が起こった際 家族・専門分野の関係者と話し合い本人に適した計画を立てるようにしていく。
43	○ <u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に細かく記入し話し合いながら行っている。		同じ対応をする為にも情報を共有しそれと同時に介護計画の見直しも話し合っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間、健康管理・医療活用の連携体制を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	○ <u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	頻繁にボランティアに来て頂いている。		家族の方と一緒にカラオケ教室に行っている。他の入居者にも反映出来るよう取り組んでいる。
46	○ <u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアの見学、研修の受け入れを行っている。		マンドリン演奏・コーラスグループ等積極的に取り組んでいる。
47	○ <u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理容サービス等を他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合っている。	○	今後も各サービス利用を取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	○	必要に応じ地域包括支援センターと連携していく。
49 (19)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		かかりつけ医師との日頃からの連絡を密にし適切な医療を受けられるようにして
50	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	今後、医師と関係を築きながら職員が相談できる体制を作りたい。
51	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	訪問看護訪問時に利用者の健康状態について話し、健康管理についてアドバイスを受けケアの中に取り入れていきたい。
52	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	○	家族と連絡を密にし医療関係者と相談しながら受け入れ態勢を整えていく。
53 (20)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	状況変化を家族・医療関係者と密に行いその時々に対応をしっかりと話し合い決定していきたい。
54	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医師、訪問看護と連絡を密にし話し合いながらケアしていくよう努める。
55	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	利用者本人のダメージが最小になるよう家族・関係者と十分に話し合い安心して生活できるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	傷つくような言葉・態度を取らないように話し合い心掛けている。
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	事前に説明を行い声掛けをし自分で決めて頂く。話し合いで良い方法をとる。
58	○ “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	○	本人の持っているものを可能な限り引き出し皆の役に立っていると感じて頂けるよう努める。
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○	本人の意思を尊重した対応をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		家族の方に了解を得ている。最近はなじみの理容になっている。
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	○	調理準備に参加して頂くことにより食事が楽しみになるよう支援している。
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		好きな物を楽しめるようにしていく。
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に1日おきに実施。清潔保持の為にも気分良く入って頂くよう配慮する。		利用者の意向を聞いて、気持ちよく入って頂くよう努めている。
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	眠るまでの時間の過ごし方等に配慮するなど安心して眠れるよう努めている。		不安で眠れない方に対してよく話を聞いて安心して休んで頂けるよう努める。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとりひとり楽しんで頂けるようトランプ、歌、雑巾縫い、塗り絵 掃除、洗濯物干し、ゴミ出し等活躍できるよう支援している。	○	今後のひとりひとり出来ることを見いだし充実した生活を送れるよう配慮していきたい。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物等は職員と一緒に出掛ける。	○	日用雑貨などは本人と一緒に買い物出来るよう支援していく。
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候を見て散歩に出掛ける。		寒い時、暑い時を除き出来るだけ散歩に出るよう努める。
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	全員で車に乗って外出、外食等に行く。家族と共に出来る機会を作るようお願いし実行している。		家族と共に外食、ドライブに行かれている利用者もいる。今後も実行していく。
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を利用し家族と話をしている。字が書ける方に関しては家族宛に年賀状を出した。		家族の方の都合を聞いた上で連絡が取れるようにしている。
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問でき居室又は食堂で本人と話が出来るように対応している。		家族・知人・友人の方が来られたときは居室又は食堂で皆様と楽しめる。
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	適切に対応している。		希望されたときは居室で宿泊出来るよう対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	○	家族の方に負担にならない程度で家族を中心に行う。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		抑制や拘束の内容を再確認して日常のケアに照らし合わせる。
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		鍵をかける必要がないようひとりひとりが心のケアに取り組んでいる。
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		巡回時にプライバシーを考慮しながら様子観察をしている。
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		目に付くところはさけて危険を防ぐようにしている。
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	○	特に夜間の転倒に注意し見守り、1時間おきの巡回を行っている。服薬についても飲まれるのを確認するようにしている。
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	定期的に行いたい。急変時や事故発生時について職員同時話し合っている。
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	○	ヒヤリハット、事故防止、再度事故につながらないように緊急時速やかに対応できる心構えを身につけていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	1年に2回、避難訓練を行っている。そのうち1回は地元の消防署員にも参加してもらっている。	○	管理者・職員がどの状況でも危機感を持ち災害時にも慌てず対応できるよう地域の人々とも連携していけるよう努める。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族会の時に話し合っている。 個別に対応している。	○	突発的なリスクの発生時には早めに家族と連絡をとり対応するよう努める。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック等によって体調の変化の早期発見に努めている。	○	医師・往診・訪問看護師による連携で健康面、精神面への配慮を行っている。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	ひとりひとりの服薬を把握し訪問看護、医師、薬剤師と連絡が出来ている。		医師の指示を受けて服薬管理を行い、決まった時間に服用して頂いている。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎朝 牛乳を飲む。野菜を多く取る等 食事に気をつけている。排便をチェックしている。毎日ラジオ体操を行い体を動かす。		それでも便秘が続く場合は医師の指示のもと下剤を服用し排便を促す。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	歯磨き、義歯の清掃、保管を行っている。また定期的な歯科診療が必要な方に関しては家族に受診を促している。		ひとりひとりにあった口腔ケアを行っている。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康チェック表に食事の摂取量、水分補給量等を記入している。献立表を作成し栄養バランスよく摂取できるようにしている。		栄養摂取はもちろんのこと水分摂取には特に気を配り脱水に注意している。またひとりひとりの摂取量をしっかり把握していくよう努める。
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	外から入ってきたときは手洗いうがいを徹底している。消毒剤で手指の消毒を行っている。職員・利用者ともインフルエンザワクチンを打っている。	○	感染症マニュアルを基にし、予防対応について時あるごとに話しあう。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、新しい食材を使用し冷蔵庫に保管している。調理用具は消毒する等し、きちんと衛生管理を行っている。		賞味期限等に気を配っている。調理用具は毎食使用後消毒するよう心掛ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口に案内板を掲示しプランターを置く等して家族、近所の人が入りやすいように工夫している。	構造上、玄関、建物は決まっているため玄関に入ったとき温かみのある雰囲気作りをする。
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	壁面や玄関の戸に季節感のある装飾をしている。(折り紙や切り絵等)	プランターに花を植えたり居間に生花を飾ったりと季節を感じられる空間作りをしていく。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置の工夫をしている。食堂、廊下等、好きな場所で過ごせるように工夫している。	共用部で快適に過ごして頂けるよう努めている。また状況により位置を変える場合は利用者のストレスにならないように努めている。
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は使い慣れたもの等を使ってもらい本人や家族によって居心地よく過ごせるように工夫している。	自宅からの持ち込みについて本人の希望、状況に応じ家族と相談し、こまめに調整していく。
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常時、換気扇による換気を行っている。窓を開け空気を入れ換えている。温度調節は利用者の状況に応じて配慮している。	温度調整について利用者の体感温度を再認識し快適に過ごせるよう配慮していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室に手すりをつけている。	個人の状況、身体レベルにより介護用具を利用し安全で快適に生活、活動できるよう工夫していく。
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	説明と行動を繰り返し、「わかる力」を活かせるように声掛けをし、自立して生活できるよう努めている。	○ 失敗を未然に防ぎ混乱されない様に声掛けをして安心して生活して頂くよう努める。
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外に畑を作り利用者と共に世話をしている。また収穫を楽しんでいる。	外回りの物干し場で洗濯物を干すなど活動して頂いている。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ③たまに <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あやらぎ
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16番13号
電話番号	083-242-9336
開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (1月19日現在)

ユニットの名称	グループホーム あやらぎ 2階				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名		男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	2	
	要介護 2	1	要介護 5	0	
	要介護 3	5	要支援 2	0	
年齢構成	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 88 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	リーダーを中心に、職員と話し合いながら実施
評価確定日	平成 21 年 2 月 2 日

【サービスの特徴】

日常生活を通じて、できる事を続けられるように支援しながら利用者が安心して、楽しく居心地よく過ごせる住まい。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		その取り組みもあつてか、最近では散歩をしていて近所の人から気軽に声をかけてもらえる事も増えている。
7 (3)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	今後も地域の活動に参加していきたい。
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>現状の見直しに活用し、具体策を提示して取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>利用者のニーズや状態の変化に対し速やかに見直し、具体的な改善に取り組んでいきたい。</p>
10 (5)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>月例のミーティングを活用。報告や問題点などを話し合い、職員全体で取り組み理解し、利用者個々にとってより良いサービスを提供していけるように支援している。</p>	
11 (6)	<p>○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の行事等を把握して、積極的な参加への呼びかけや、ワムネットなどを活用し、研修にでたり、事業所全体の質の向上を図っている。</p>	
12	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	<p>研修に参加し学ぶよう、努めている。</p>	
13	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ミーティング時に全体へ注意を促し、各フロアにて職員で話し合いをする事で虐待防止の推進に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>可能であれば利用者も同席し、本人や家族の不安や疑問に対し、十分な説明を行い理解、納得を確認してから行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員全員が窓口となり、ミーティング時の提示や連携する他職種員との話し合い等、利用者のニーズに対応する努力をしている。</p>	
16 (7)	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月例の家族会や、ハガキでの会報郵送、面会に来られた時に生活記録による情報やアルバム等で報告をし、緊急を要する時は、電話での報告を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		<p>不満や苦情は書類に残し、改善に努めている。また、苦情に対するマニュアルも作成している。</p>
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を開く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	<p>今後、交流会などに参加し、同業者との交流を図る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休憩が取りやすい事務所の環境作りを工夫していきたい。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		利用者からの訴えを職員は何をしてもその場で傾聴し、本人がその困難、要望等が伝わり安心するまでコミュニケーションを図る。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		家族会を活用し意見や問題点等を提示して頂く。個別としては各フロアの職員全員が窓口となり傾聴を心がけ、家族の不安を軽減できるように努めている。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		相談者との対話の中から、早急に対応すべき事、急を要さないが、して欲しい事を判断し、確認して全職員で共有する事により、利用者と家族が安心して過ごせるように努めている。
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入所契約の前に本人と家族の見学をしてもらっている。また、より詳しい情報を提供してもらうためにセンター方式を記入してもらい馴染みが作りやすくなるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		利用者の「できる事」は積極的に参加してもらったり、一緒に取り組みながら利用者の自信や生き甲斐に近づけるよう、また信頼関係をはぐくんでいけるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者に対しての悩みを相談したり、面会時に日常生活ぶりや出来事を話して、暮らしぶりが想像でき、その人らしく過ごせるよう職員と共に支援してもらっている。また、表面的にわかりづらい状態なども細かに伝えるよう努めている。		家族がいつでも気軽に来やすい雰囲気作りに努める。
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時にまず、プライバシーの守れる自室にて談話をされたリリビングにて他の入居者と一緒に過ごし、利用者とのコミュニケーションが図れるよう努めている。		家族会の時など、家族同士がざっくばらんに意見を出したり、気軽に話ができている。
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者個人の馴染みの場所へ出向くのは限りがあるが、馴染みの人などは、面会に来て頂いたりして関係がとぎれないよう努めている。		遠方の方などは、年賀状やハガキなどを作成し、関係がとぎれないよう努めている。
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者一人ひとりの個性を考慮して仲の良い悪いに配慮して、職員はパイプ役に努め、利用者が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今後の入居先や、その人に合った所など、最後まできちんと関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの長期目標、短期目標を念頭に置き、本人の希望や意向にそうように一緒に取り組む。その時点で困難であっても、本人のその時の体調などを考慮して焦らず取り組んで検討するよう努めている。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の生活歴の活用や、本人や家族とのコミュニケーションから推察したり、多くはないが友人等からの情報や入所以前に利用していた施設からの情報を活用し、把握に努めている。		
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者各人のその日の心身状態を把握し、毎日の習慣としていることは、なるべく欠かすことのないように見守り、「できる事」への参加を勧め、「生き甲斐」や「達成感」などを感じて頂けるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向や本人をよく知る家族等、話し合い気づきや意見、要望を計画に取り入れ、本人の生き甲斐に近づけるよう努めている。	ケアカンファレンスなどを取り入れ、家族の方や本人をまじえ今後のケアの要望や取り入れて欲しい意見、見直しなど取り組んでいる。
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプラン、介護計画にそって支援しているが、昨日できたことが今日できないということなどもあり、期間ばかりにとらわれず見直しをするなど支援している。また、職員や家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな計画に努めている。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日記入している「介護記録」や「健康チェック表」、「連絡ノート」などの活用、申し送り時の口頭での連絡等で情報を共有し、実践や見直しに活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	定期的な外出や外食、家族での通院ができない人に関しては通院介助を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	インフォーマルなサービスは周囲の協力を得られ、多方面の活用と支援をいただいている。	ボランティアの方など慰問に来て演奏会やコーラスなど取り組んでいる。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	運営推進会議を通じ、事業所の開放を公表し、意見の交換や受け入れなども実施している。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問理容の方に定期的に来ていただき、本人の意向や好みに合わせた支援に努めている。また、パンの異動販売にも定期的に来てもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p><u>○地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><u>○かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><u>○認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><u>○看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><u>○早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><u>○重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><u>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p><u>○住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉がけや対応は職員全員で気をつけている。記録や個人情報などは所定の場所に保管している。職員全員、個人情報の取り扱いに慎重である。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた説明を行っている。なるべく本人に決めて頂いている。	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	実施している。個々の力量に合わせた無理のないよう焦らず「できる力」を大切にしながらひとつひとつの段階ごとに声掛け支援をしている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	個々のペース、心身の状況に応じて本人の希望に添って過ごして頂けるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	限りはあるが努めている。日常生活でお出掛けの時など本人と話し合いながら本人が望むように努めている。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の心身の状態や気分などに配慮しながら調理が好きな人、洗い物が上手な人など少々時間がかかっても見守りながら一緒に楽しくできるよう努めている。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	毎日とはいかないがおやつなど好みの物など楽しめるよう努めている。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	実施している。前に行った排泄の時間など記入して声掛けや誘導に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現状では1日おきの実施をしているが利用者からの希望や突発的に消毒を要する場合など入浴している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一日の流れの中では20時入床と決めていたがその日の体調や状況で利用者本人の意向にまかせている。就寝以外の睡眠は本人の体調、心身の状況を考慮している。季節によって(夏場など)昼間の仮眠を促したりもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	実施している。歌が好きな人、折り紙を楽しむ人、散歩、TVを観たり花の水やりなど張り合いや生き甲斐に向けての取り組みに努めている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状況に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金の持ち込みは自粛して頂いている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	限りがあるが近くの公園、海へ行ったりドライブに出掛けたり、外食なども取り入れている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の職員同行での個人的外出は行ってないが本人の外出希望があればそれを家族に報告し本人の願いが叶うように家族と共に支援している。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話は必ず本人に取り次ぎ手紙など長文は難しい為ハガキと一緒に作成しポストに投函している。電話をかけたい要望があるときは応じるよう努めている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	工夫している。いつでも気軽に足を運んで頂けるように笑顔を大切にして職員もさりげなく会話に入ったり居心地良くしている。自室で本人とゆっくりして頂いたりも努めている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	何の問題もなく希望通りの支援が提供できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	1年に1回取り組んでおり今後も継続していきたい。
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>	○	職員が体験したヒヤリハットを話しやすい雰囲気などに気を配り皆で今以上に共有していけるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練や災害対策マニュアル設置等と日頃の防災意識を心掛け近隣、地域の方々に迷惑をかけないように注意している。	○	年2回のうち1回は地元の消防署員にも参加してもらっている。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	高齢者のリスクを考えた時に家族の協力は不可欠で1人1人抱えるリスクが異なるので専門職等の情報なども提供し対応策を話し合い同じ方向で支援に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを基に様子、顔色、本人の訴え、日頃のスキンシップなど異変かな。と感じた時点で他職員に連絡をし看護師に報告し対応の相談し、対処する。早期発見を心掛け努めている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の処方箋に記載されている用法、用量、注意事項を理解し、施薬者と投薬者を別人にし手渡す時にもう一度薬のみに書かれてある名前を確認してから渡すことで投薬ミスを防止している。症状の変化、改善等は医師に報告をしている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	予防対策として水分摂取1日必要な量、食物繊維を多く含む食材を使い調理した食事や多種に工夫した水分(ゼリー、寒天、色々な飲み物)摂取、歩く事をメインに軽い運動に努めている。排泄の記録をして取り組みを実施する。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の歯磨き(舌みがき、歯間ブラシ使用、その他の実施)と就寝時に義歯を預かり洗浄液に入れる。歯ブラシ、コップは週に一度薬剤消毒を実施。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調、体重の変動、好み等を考慮し、食べ残し飲み残しのないよう栄養バランスや水分摂取の確保を支援している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	予防実施内容①予防接種を受ける。②手洗いうがいの実施 ③疑わしいと感じた時点での病院受診 ④事業所へ報告 ⑤完治するまで休職 ⑥復職後の経過観察		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理者の手洗い、調理器具の消毒、まな板の使い分け、食材の適温保管、先入れ先出し、なるべく加熱処理した料理をする。調理器具や布巾、タオルの消毒など安全に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
90	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
91 (36)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>		
92	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
93 (37)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
94	<p>○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>		
96	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
97	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108	職員は、生き生きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない